

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 4月 2日

【評価実施概要】

事業所番号	2070300690		
法人名	特定非営利活動法人団		
事業所名	認知症高齢者グループホーム梨ノ木荘		
所在地	長野県上田市大屋239-3 (電話) 0268-35-0044		
評価機関名	コスモプランニング株式会社		
所在地	長野市松岡1丁目35番5号		
訪問調査日	平成21年3月25日	評価確定日	平成21年4月15日

【情報提供票より】(平成21年 3月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	10 人	常勤 6人, 非常勤 4人, 常勤換算 7.2人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 ~ 2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000円~40,000円	その他の経費(月額)	共益費500円(11月~3月暖房費3,000円)
敷 金	有 (円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,100 円

(4) 利用者の概要(平成21年 3月 1日現在)

利用者人数	8 名	男性 2 名	女性 6 名
要介護 1	0	要介護 2	2
要介護 3	6	要介護 4	0
要介護 5	0	要支援 2	0
年齢	平均 87.75 歳	最低 78 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・花園病院 ・千曲荘病院 ・滝沢病院 ・滝沢歯科
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

上田市を走る国道18号線の大屋交差点から徒歩で5分位の所に民家改修型のグループホーム梨ノ木荘がある。近くにはしなの鉄道大屋駅があり交通の便が良い。入居者は以前歯科医院であったホームの建物に懐かしさと温かみを感じながら、共有空間で過ごされる時間が多い。訪問時にはリハビリを兼ねて職員と一緒に折り紙をしながら会話を楽しんでいる光景に出会った。そこには職員の優しいまなざしと教える手にぬくもりがあり、入居者の笑顔にやすらぎを感じられた。簡潔な理念を実践に繋がっている。ホームは食にこだわり、地元で取れた野菜や高価でも安全な食材を使い、食事は勿論であるが手作りのおやつなどに工夫を凝らしている。情報を発信するブログは毎月更新され内容豊かで見ごたえがある。地域にも目を向けており、近くの一人住まいの高齢者を訪れ交流し、信頼関係を深めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の改善課題を話し合い、理念の共有とその具体的な実践に取組んでいる。家族会の設立については今年度初めて集まりを持ち、より広く意見を聞く体制をつくり上げた。災害対策については消防署の指導の下に避難訓練を行い助言を受けている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で自己評価を行ない、取りまとめは施設長と管理者が行った。職員は会議で確認しあい考えを共有している。運営推進会議の席上でも取り組み状況を報告している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は市担当者、地元自治会役員、地域ボランティア、家族の出席を得て2ヶ月に一度定期的に開催されている。主に事業の報告や取り組み状態を議題にしながら出席者から意見や知恵を頂き、入居者の支援に役立っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	入居者は全員地元出身者であるが世代交代したり子供がいない等で甥や姪が入居者代理人となっている方が多い。東京、埼玉など遠方に居住している方が多く入居者との交流はやや少ない。家族等には入居者の1ヶ月の毎日の様子を毎月請求書と一緒に同封し報告している。家族とホームの関係は良好であるが、遠方に居住する家族の意見を聞くための体制作りやブログを活用した対応策も期待したい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の中で買い物をしたり、散歩の際は近隣の方に挨拶して、地域に溶け込むように努めている。地区のふれあい広場やお祭、盆踊り、老人会、文化祭等に参加し交流している。入居中の最高齢の方が文化祭に絵を出品し好評であった。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	立ち上げた理事長の思いをわかり易い言葉で謳っている。「優しいまなざし、手のぬくもり、心のやすらぎ」を理念としている。	○	理念を見直すような機会があれば、地密着型サービスとしての理念を加えていただくことを望みたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は梨の木荘を立ち上げた理事長の思いや理念を共有し、日々の実践の中で活かしている。入居者との対応にその取り組みが窺われた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ふれあい広場への参加や地区の文化祭への入居者の作品の出品、区の清掃活動等に参加している。近くの一人住まいの方に声をかけ、お寿司やおやつのおすそ分けをするなど温かな交流を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の意義・目的を職員全員が理解し評価を行い、理事長と管理者によりまとめられた。前回の評価を踏まえ改善に取り組んでいる。		

認知症高齢者グループホーム梨の木荘

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市担当者、地元自治会役員、地域ボランティア、家族等が参加し、事業の報告や評価の取り組みについての話し合いや意見・要望を頂いている。その場で得た意見等をサービスの向上に繋げている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議で話し合われたことは改めて市担当部署に伝え、常に連携をはかるように努めており関係は良好である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームのブログが毎月更新されており、梨の木荘の情報を発信している。家族が来所された時に預かり金の出納帳にサインを頂いている。毎月の請求書と一緒に入居者の一ヶ月の生活状況を記したものを送付している。新しく「梨の木荘便り」を出す計画もある。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	昨年家族会が立ち上がり、年2回開催予定である。家族同士がお互いの悩みなどを話し合う良い機会となっている。家族とホームの関係は良好であるが、遠方に居住する家族の意見を聞くための体制作りやブログを活用した対応策も期待したい。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年度、職員の退職は全くなく、定着したことでダメージは一切ない。やむを得ない事情で職員が変わる場合にはなるべくダメージを防ぐような態勢づくりはできている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県の研修等はホームから情報を提供し、本人の意思を尊重し積極的に参加させている。内容によっては管理職サイドで決めることもある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域にNPO法人が立ち上げた三つの事業所があり、その集まりに参加している。そこで計画された研修や学習会に参加し、連携しながら交流を深めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族とは事前に話し合いが行われており、本人納得の上で半日ほど家族とホームで過ごしていただき入居に繋げている。一人住まいで入居される方は家族等が遠いこともあり、職員サイドで馴染めるように工夫し、支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者が人生の大先輩であるという考えを職員は共有しており、尊敬の念を持って支援している。長年の経験の中で培った知恵を教えていただく場面が多い。支え、支えられる双方向で良好な関係が築かれている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活暦や日々の様子から本人の思いや意向を把握し、家族等と相談しながら本人の気持ちに沿って検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族には日々のかかわりの中での思いや意見を聞き介護計画に反映させるようにしている。職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスなどを行い、計画作成担当者が中心となり介護計画が立てられている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しは3ヶ月を目安に行っている。毎日のケアプラン実行表により入居者の状態、状況を申し送り、ケア会議で話し合っている。変化があった場合は速やかに現状に合った新しい介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が来れない時は職員が通院に付き添い、送迎等を行っている。近くの一人住まいの方に声をかけ、お寿司やおやつのおすそ分けをするなど自主的な取り組みも行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望に沿ったかかりつけ医で受診している。状態によっては往診も含め、協力医療機関で受診することにより適切な医療がいつでも受けられようになっている。インフルエンザの予防注射やメタボ検診なども協力医療機関で行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	管理者や職員は終末期について話し合っている。現時点では医療を優先し、ホームでの対応が難しいと判断した場合には家族と相談し、協力医療機関と相談の上で入院している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	折りに触れ職員の意識向上を図っている。入居者の誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応に心掛けている。入居者の記録もインシヤルで、名前が直接目に触れないように留意している。居室へ入居者の名前を表示することもひかえている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調を見ながら個別性のある支援をしている。近くの公園に出かけたり、近所を散歩したり、買い物などをして楽しんでいる。共有空間で過ごす方も多く、テレビを見たり、マッサージを受けたりするなどそれぞれのペースで過ごしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片づけを職員と一緒にしている。入居者と職員は共に食事をしており、美味しい食事に満足的笑顔がこぼれていた。和やかな雰囲気作りを大切にしている様子が窺えた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回は入浴している。入浴時は職員と入居者がマンツーマンで向き合い、ゆっくりと話ができる。入居者、職員双方の気持が通じ合い、楽しみのひと時となっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	最高齢の入居者が絵を描くことを楽しみにしている。訪問時もチューリップの絵がほぼ完成に近く見せて頂くことができた。裁縫の得意な入居者がボタン付けやほころびを縫ったり雑巾も作っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お天気の良い日には散歩に出掛け、地域の方と挨拶を交わしている。一人ひとりの希望に沿って買物などに出かけられるように取り組んでいる。温泉やお花見に出掛ける計画が立てられている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的には夜間以外玄関の鍵を掛けていない。入居者の気配を察知し気配りと見守りで対応するよう心掛けている。現在は無断で外出するような方はいない。		

認知症高齢者グループホーム梨ノ木荘

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導により年1回避難訓練、消火器の使い方、通報訓練を行っている。非常災害の際、ホームと地域との協力体制が確立出来るように運営推進会議を通して地域に呼びかけをしている。	○	非常の際の誘導も含め地域との協力体制を早期に築くことや災害に備えた備蓄・備品等を更に拡充することが望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎日チェック表に記入し、職員間で情報を共有している。保健所等の栄養士に献立表を見てもらい、専門的なアドバイスをしていただくことも必要かと思われる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	改修された共有空間には居間兼食堂と一段高くなっている和室があり、足を伸ばせる場所がある。入居者は馴染んだ自分の椅子に座り思い思いの時間を過ごしている。レクリエーションなどで集う機会を意識的につくることや花や絵で居心地の良い空間づくりをするなど配慮がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家改修型なので居室の大きさはそれぞれ違っているが、オイルヒーターが備え付けられ、本人が持ち込んだテレビや写真が飾られている。また、入居者が描いた絵が掛けられるなど、趣味の作品を思い思いに持ちこんでいる居室も見うけられた。		

※  は、重点項目。